

第2章 第3期計画の主な取組と今後の課題



1 主な取組（第3期計画期間中の地域住民による活動及び市社協事務事業）

計画に位置付けられている住民（地区社協など）の活動及び市社協の関連事業の5年間の取組状況です。（主な事業・活動名の説明は10ページ）

(1) 計画書に掲載されている活動、事務事業の状況

※令和2～3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止多数

○きずなチーム活動

（活動の充実を目指した市社協の取組）

	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
取組内容	全体研修会(220人) 代表者連絡会(2回) 地区別研修支援(6回)	全体研修会(283人) 代表者連絡会(1回) 地区別研修支援(7回)	全体研修会(207人) 代表者連絡会(1回) 地区別研修支援(4回)	全体研修会(中止) 代表者連絡会(資料配布) 地区別研修支援(中止)	全体研修会(中止) 代表者連絡会(中止) 地区別研修支援(4回)

（見守りにもつながる昼食会・配食等の地区社協の取組）

	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
実施回数	115回	154回	151回	126回	127回
対象者数	2,107人	2,115人	2,020人	1,996人	2,184人

○世代間交流事業（地区社協の取組）

	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
地区社協の取組内容	ウォーキング、季節の行事、工作教室、各種イベント等の主催 子ども会、青少年育成関係、体育関係団体への支援 子育てひろば、子育てサロンへの支援				

※例年、同じような内容での取組

○サロン活動（市社協の支援・地区社協での運営）

新規立ち上げ補助金、運営補助金支出、保険加入（保険料支出、加入手続き事務）、その他運営支援をしているサロン数

	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
サロン数	62か所	66か所	75か所	72か所	72か所

○いきいき健康事業（地区社協での開催状況）

	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
開催回数	68回	79回	71回	20回	28回
延べ参加者数	2,391人	2,455人	2,339人	350人	689人

○地域福祉コーディネーター

(養成研修会受講者) ※平成20年度から開催、341人受講

	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
受講者数	21人	28人	20人	中止	20人

(地域福祉コーディネーター会設置状況)

	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
設置地区数	10地区	10地区	10地区	11地区	11地区
コーディネーター人数	124人	122人	104人	132人	130人

○生活応援隊(取組状況)

	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度
取組地区数	7地区	8地区	9地区	10地区	10地区
サポーター登録人数	399人	499人	509人	482人	486人
依頼者数	262人	248人	261人	232人	233人

○地区社協と施設、地域包括支援センター、団体との連携支援…(1)

○地区社協会長、自治会長、民生委員児童委員の連携強化…(2)

○地区社協活動支援、家族介護者支援事業、地区社協主催の研修活動…(3)

No.	事業名	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
(1)	障がい福祉施設 名産品カタログ&マップ		Vol.2 発行			障がい福祉施設 のお弁当屋さん 発行
	社会福祉法人連携事業	講演会 情報交換会	連携協働に関する アンケート実施 自治会長、民生委員、地区社協会長 との意見交換会	社協さんちの 井戸端会議	中 止	中 止
(2)	三者合同研修会	開 催	開 催	開 催	中 止	中 止
	共同募金運動	実 施	実 施	実 施	実 施	実 施
(3)	地区社協活動支援	ブロック単位担当職員配置 6 人 ・補助金見直し	→	地括圏域担当職員配置 11 人 ・情報交換会 地区社協運営	地括圏域担当職員配置 13 人 ・情報交換会 コロナ禍での活動 ・情報提供 活動手引書等	地括圏域担当職員配置 13 人 ・情報交換会 コロナ禍での活動 ・情報提供 みんなのおたより等
	家族介護者支援事業	介護者同士の情報交換等を目的とした昼食会 特別養護老人ホーム「芳徳の郷ほなみ」 桜井地区社協共催			認知症高齢者を支える家族のための 「昼のおはなし会」 しもふなかコンパス主催 下府中地区社協参画	
	研修活動支援	随時支援				

○福祉ボランティアスクール、福祉施設体験学習、福祉体験出前講座（参加者数）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
福祉ボランティアスクール	1,228 人	1,361 人	1,074 人	209 人	520 人
福祉施設体験学習	30 人	35 人	40 人	中 止	中 止
出前講座	63 人	224 人	46 人	中 止	152 人
福祉体験学習	——	——	——	——	9 人

※福祉体験学習は、令和 3 年度からの新規事業（コロナ禍における展開）

○日常生活自立支援事業

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
契約者数	17 人	15 人	17 人	14 人	17 人
相談対応件数	1,504 件	1,567 件	1,347 件	1,056 件	1,063 件

○法人後見事業（動向・受任件数）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
動 向	事業開始				
受任件数	——	後見 4 件 保佐 1 件	後見 3 件 保佐 1 件	後見 4 件 保佐 1 件 補助 1 件	後見 5 件 保佐 2 件 補助 2 件

○総合相談事業（関連事業の取組）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
動 向	福祉まると相談事業 開始	業務連携定例会 開始		地域福祉相談支援事業 開始	

○資金貸付事業（相談及び貸付件数）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
生活福祉資金 延べ相談件数（上段）	198 件	166 件	276 件	8,641 件	6,362 件
貸付件数（下段）	12 件	19 件	9 件	25 件	44 件
生活つなぎ資金 貸付件数	47 件	61 件	94 件	90 件	86 件

※生活福祉資金相談件数について、令和 2 年 3 月からコロナ特例貸付の相談対応件数も含む。貸付件数はコロナ特例貸付を除いた件数

○年末たすけあい義援金配分事業（配分数）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
子育てサークル支援	34 か所	34 か所	36 か所	32 か所	33 か所
食糧支援	146 セット	85 セット	41 セット	97 セット	72 セット

○共同募金運動（小中学生の運動支援）

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
取組学校数	4 校	4 校	4 校	中 止	中 止
参加者数	132 人	145 人	115 人		

○広報啓発活動

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
障がい福祉施設 名産品カタログ&マップ		Vol.2 発行			障がい福祉施設 のお弁当屋さん 発行
社協おだわら	人物紹介 活動紹介 障がい関係紹介	活動紹介	障がい関係紹介 介護保険関係	福祉まるごと相談	寄付紹介 権利擁護関係 人物紹介
精神保健福祉 地域交流事業	参 加				

○防災関係の取組

	平成 29 年度	30 年度	令和元年度	2 年度	3 年度
防災関連講座	地区ボランティア 研修会 市災ボラ講演会	きずなチーム 地区別研修会 市災ボラ講演会	きずなチーム 代表者連絡会 きずなチーム研修会		
避難所運営 ゲーム			きずなチーム 地区別研修会		市民学校
市社協職員用 災害時対応マニュアル			策 定		
災害ボランティアセンター 運営マニュアル	打合せ・見直し (随時)			市と協定締結	→
関連事項	九都県市 合同防災訓練	社協おだわら で啓発	小田原青年会議 所、小田原市と 三者協定締結		災害ボランティアセンター 候補地検証

(2) 第3期計画策定以降の新規関連事務事業の状況

○多機関の協働による包括的支援体制構築事業（平成29年10月～）

平成29年度	30年度	令和元年度	2年度
多機関連携会議 各種研修会開催 地区社協・地区民協への 周知、研修会対応 圏域ケア会議参加	相談支援包括化推進会議 多機関連携会議 各種研修会開催 地区社協・地区民協への 周知、研修会対応 圏域ケア会議参加	ひきこもりをテーマとした ・相談支援包括化推進会議 ・意見交換会 地区社協・地区民協への 周知、研修会対応 圏域ケア会議参加	ひきこもりをテーマとした ・相談支援包括化推進会議 ・意見交換会 参加支援事業「コレカラ」
延べ相談対応：116件	延べ相談対応：836件	延べ相談対応：1,143件	延べ相談対応：1,166件
3年度			
ひきこもりをテーマとした ・相談支援包括化推進会議 ・意見交換会 参加支援事業「コレカラ」			
延べ相談対応：949件			

○生活支援体制整備事業コーディネーター業務（平成30年4月～）

平成30年度	令和元年度	2年度	3年度
報告件数 新規把握：20件 資源開発：4件 活動の場：1,104件 ネットワーク：16件 協議体：245件	報告件数 新規把握：3件 資源開発：1件 活動の場：2,003件 ネットワーク：3件 協議体：240件	報告件数 新規把握：1件 資源開発：1件 活動の場：265件 マッチング：9件 ネットワーク：16件 協議体：105件	報告件数 新規把握：1件 資源開発：2件 活動の場：647件 マッチング：5件 ネットワーク：4件 協議体：187件

○地域福祉相談支援事業（令和2年10月～）

アウトリーチと伴走支援、
各種団体等の活動支援

活動項目	令和2年度	3年度
各種会議	27件	74件
各種地域活動	37件	72件
訪問・連絡調整	10件	56件
個別支援	14件	41件
地域支援	231件	578件

※対象地区：足柄、芦子、上府中地区

福祉的な場面で使用される言葉

「アウトリーチ」とは

生活上の課題を抱えながら、自ら訴えることができない個人や家族に対し、家庭や学校への訪問支援、当事者が出向きやすい場所での相談会の開催、地域におけるニーズ発見の場や関係づくりなどにより、支援につながるよう積極的に働きかける取り組みです。

◎主な事業（活動）名の説明

○きずなチーム活動…（関連情報 48 ページ）

見守りを目的に、各地区でさまざまなスタイルで取り組まれている活動で、市社協では、その支援をしています。

○サロン活動…（関連情報 49 ページ）

第3期計画の9項目の施策中、5項目で位置づけられているもので、いろいろなアイデアで多くのサロンが運営されるようになっていきます。

○いきいき健康事業…（関連情報 70 ページ）

転倒予防や認知症予防をはじめとする介護予防教室です。

○地域福祉コーディネーター…（関連情報 54 ページ）

地域活動のつなぎ役として、主にサロン活動、広報活動、生活応援隊の推進役として活動している人で、新たな地域活動の担い手にもなっています。

○生活応援隊…（関連情報 49 ページ）

第2期計画の策定期間中に取組が始められたもので、その後、取組地区は増えており、本活動の推進により、多くの人がサポーターとして地域活動への参加意思を示すきっかけにもなっています。

○多機関の協働による包括的支援体制構築事業…（関連情報 35・37 ページ）

住民の悩みに対し、多機関と連携を図りながら、地域の福祉資源も有効に活用し、問題解決に向けて伴走的な支援を推進している事業です。

○生活支援体制整備事業コーディネーター業務

高齢者の生活支援・介護予防の基盤の整備を進めていくことを目的とし、地域において生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネートを行う業務で、地域資源の把握・ネットワーク化やボランティア等の生活支援の担い手の養成、新たな地域資源の発掘・サービス開発等に取り組めます。

○地域福祉相談支援事業…（関連情報 36 ページ）

生活上の課題を抱えながら、自ら援助にアクセスできない個人や家族に対し、地域におけるニーズ発見の場や関係づくりなどにより、支援につながるよう積極的に働きかるといった「アウトリーチ的な活動」で、各種調整や支援に取り組んでいるものです。

○総合相談事業

地域生活上の多様なニーズ、「生活のしづらさ」へ対応するため、多様な担い手の参画によるネットワークや連携・協働での総合的な働きかけを行っていく事業です。

2 課題検証

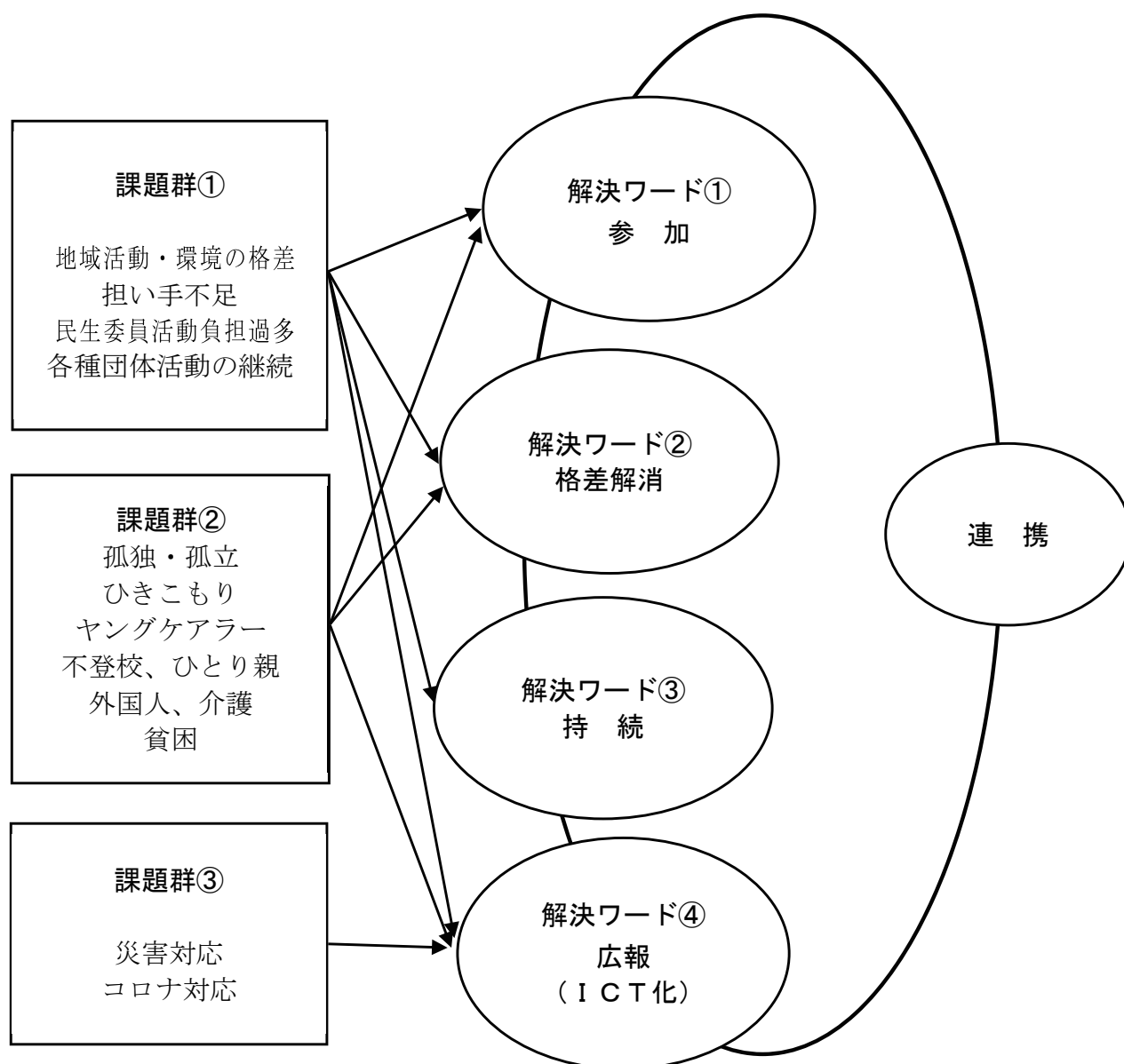
(1) 市社協職員等ワークショップ（令和3年10月25日開催）

第4期計画の方向性を示す基本目標及び行動計画、更には年次計画で位置づける主な事務事業について、職員個々が主体的に考えることができる場として開催しました。

ワークショップで出された課題は、概ね下記のとおりであり、大別すると3つの課題群にわけられました。

それに対する具体的な解決方法も提案されましたが、各提案に内在する基本的かつ特徴的な言葉は、上記「解決ワード①～④」のとおりとなります。また課題群ごとに複数の解決ワードに導くこともできました。

更に、これら解決ワードは単体で機能するのではなく、すべての項目で相互に連携することで、より効果的な解決に導くことができることも考察されます。



(2) 関係機関・団体に対する意見収集（期間：令和4年7月1日～15日）

地域福祉に携わる機関・団体の皆様（31個人及び団体）から、第4期計画の行動計画案（9項目）の方向性に対する役割・取組について、可能な範囲でご自身・団体としてできそうなことやご意見をいただいたものです。（意見収集先の名簿は84ページ）

○多機関協働による相談支援体制

目指す方向性・課題・対応可能なこと等
研修への講師、各種会議への参加要請は積極的に対応を検討
課題を抱える家族や各世代への相談支援の充実 制度の狭間にいる人に対する市町村からの支援強化
近隣の「助け合い」の活動グループの組織化・主体的な推進者を育てる施策
権利を保障されにくい「罪を犯した者」の位置づけ 刑事行政手続きを離れた人への地域における息の長い支援
障がい者の高齢化・年老いた親（80代）と障がいのある子（60代）の受け入れ先
包括的な相談支援体制整備に向けての窓口の一本化
外出しにくい人たちへの支援、関係者との話し合い
「声を出せない市民に寄り添える機関」、「地区社協の円滑な運営支援とコーディネーター役」としての市社協の人材の育成と確保
金融機関としての企業理念は「地域社会との共生」、各営業店からの情報も活用し相談支援体制の整備に有益なものがあれば提供
ヤングケアラー支援について理解・早期に発見できる体制の構築 アセスメントの実施と必要な支援を提供できる機会の創出
従来の地区社協メンバーに加えて、近隣住民の参加が不可欠

○権利擁護関係

目指す方向性・課題・対応可能なこと等
権利擁護関係事業における関係機関、団体との連携
権利擁護に携わる支援者に対する普及啓発 地域住民の権利擁護を図るための任意後見制度の普及啓発
後見活動等の積極的に推進・課題を随時検討していく体制の構築
市民一人ひとりにまで届く広報活動として回覧板等の利用 公民館などでの講演や相談会・地域包括支援センターでの定期相談会
子どもたちの権利擁護の充実のため、法的分野の専門家による積極的な支援活動
後見を必要とする方に対する適切な金融サービス提供の実施 市に対しては成年後見制度利用促進の積極的な推進を期待
青年会議所会員の年代（20～40歳代）も課題意識を持ち、動かなければならない問題

○地域活動への参加促進・団体間の連携等

目指す方向性・課題・対応可能なこと等
福祉機関や法律関係者等も含めた地域課題に取り組む体制の構築 医療機関との連携・若い世代への広報の充実
テーマを設定した交流会の企画
保護司人材の発掘の協力、保護司会・報徳更生寮への活動支援
地区社協組織の中に、障がい分野推進者を入れる。
昔の遊びや郷土の歩みなどを高齢者から学び、次の世代に引き継いでいく交流の場・そうした場への積極的な参加を推進
プロのフットサルチームとの意見交換と交流 コミュニティスクールの活用・ボランティアコーディネーターの交流
大学生など若い世代のボランティア活動を受け入れる場所として、世代に近い児童養護施設は受け入れやすい。
自治会活動で市や地域との連携が保たれていることへの理解が必要。 人口の少ない地域では各種団体役員の兼務が多く、負担も大きい。
自主的なサロン活動への支援と新しい視点での活動ができるよう、地区社協の運営者が集っての事例研究の場の設定
高齢者の利用が多い金融機関として、公的な支援機関との連携強化が可能・ボランティアの促進にも協力可能
ボランティアを行うことで何かを得られる仕組みの構築 「子ども食堂」の充実及び「フードバンク」の推進
コロナ禍が及ぼした影響についての考察、互いのメリットをいかすことを目的とした「フードバンク」など民間のNPOとの協業
親子参加による手洗い勉強会、食事・栄養セミナーの実施や資料情報提供が可能
青少年時代の経験は重要。一方、参加意識のある大人に対しては、企業や諸団体への参加要請を推進
安定した自己財源の確保、住民が組織する団体組織の強化と拡充

○大規模災害への対応

目指す方向性・課題・対応可能なこと等
神奈川県弁護士会県西支部としても災害対策に向けた取り組みを行う動きがあり、何らかの形で協力可能
商工会議所でも市・自治会総連と協定を結び、会員事業所が立地する単位自治会とできることの協定を進めている。
金融機関として市社協と協力しながら対応していければと考えている。
情報発信の強化、防災教育や避難訓練の充実などの対策が重要

(3) 地区社協活動関係者交流会（令和4年8月3日開催・50人参加）

地域福祉活動の要的な存在である地区社協の関係者にお集まりいただき、各地区の現状や課題を踏まえつつ、次に挙げる項目の可能性について話し合い、理想とする地区社協像を描いていただきました。

- ・一部の人に負担が集中しない運営
- ・幅広い人材や機関に参画してもらう運営
- ・若い世代に企画段階から参加を得るための取組

○主な意見

社協活動やサロン運営は民生委員が中心、他の構成員（自治会や公民館長、ボランティアなど）に対して、もう少し意見や協力を求めたい。周りを巻き込む方法を考えなければならない。

社協で活動する人が他組織の役員も兼ねているので負担が大きい。役員それぞれが地区社協に入って良かったと思える状況を作りたい。そのためには役割を明確にすることが必要。

自治会、民生委員、社協、コミュニティの横のつながりがなく、それぞれで行っていることがあるので、つながる仕組みが必要。

行事に参加してもらうためには、役員目線での企画ではなく、実際に参加する人の希望を吸い上げ、多くの人が望んでいるものを実行することが必要。

90%が農業関係者という地域。地域共生社会を考えると、地域の産業としての農業をひとつの機会ととらえ、昔の「結」のような価値観を取り戻していきたい。

経済の安定がなければ、共生社会はないと思う。高齢者、若者、子どもと分断され、差別化された価値観を変換していく必要がある。

夢は、公園を使った場づくり。狭い公民館ではコロナも心配。開かれた場である公園に季節の花を植え、季節の遊びやイベントを地域の多くの人を巻き込んで運営したい。

地区の中にいる少ない若い世代に負わせるのは限界。大学生などの外の若い人材を行政や社協などに呼び込んでもらい、新しい価値観でそれぞれの地区の新しい魅力を打ち出してもらいたい。その結果として町が魅力的になれば、人も増え、高齢者、若者、子どもも隔てのない地域共生社会になるのでは。

志のある住民が多くいると思うが、では一緒にやろうというところの踏み込みができていない。もっと地区社協をPRし、各団体や住民に理解・協力が得られるよう努めていかなければいけないと思っている。

運営そのもの、組織、事業内容をもっとPRすれば、やってみたいという人が出て来るかもしれない。一人に負担が集中しない運営が出来るようになればいいと思う。

小学校、中学校や高校生の段階で、高齢者や障がいのある人などとの関わりを通したボランティアや福祉的精神が育まれる経験がないと、大人になったときに支え合う、地域のことを自分たちでやりましょうという意欲や仕組みにならない。

神輿会を中心に地域住民が繋がっている。役員の担い手の発掘などは、若い人が多い神輿会があるので声をかけやすい。

役員を募集するには運営者側から声をかけていき、関係作りをしていくことが大事。

交流会に参加した皆さんが書かれた意見（抜粋）

○誰にでも聴く耳を持つこと
○PTA活動に参加して、明るく^{出会う}人々
名前を覚え、逢うたびに声
かけをする。

○若い世代が企画に参画できる
よう
○行事初めかどうにも高齢者
中心になっていく。
○地区によっては、高齢者が少し
参加者があがる。

担い手

担い手の掘り起こしに苦慮して
いる。結局、対面でお話をして、
理解してもらうといった所です。
良い決着があったら教之下とい。

○自治会に加入してい
ない方も気軽に
集まれる場作り
○~~集まる~~男性も
集まりやすい企画
を

5年先を見た
社協活動

幅広い人材に参画して
もらうためには、地区
社協の活動を地域
の各団体や住民に理
解してもらうことが必要
である。

地区社協の運営の取組

地区のみなまからのお祭りごとなど
を愛する体制づくりが月々せたら
と思います

社協委員 各60名以上
分科会 11分科会
→ 正副時に人材
探し、声かけする
も PTA活動
が中心に
2019
・次の担い手を
見つける事。
・充て職はできれば
やめて欲しい。
・サロン等 交流の場に
参加してもらうには？

人材・資源を共有してい
からこそ

まちづくり委員会と地区社協の
役割整理

3 今後の課題

(1) 地域における活動の課題

サロン、地域福祉コーディネーター、生活応援隊といった活動は、第1期計画からの15年間で取組件数も増えていますが、その一方で参加者の固定化、又担い手側では特定の人への負担集中、更には活動継続に対する課題が見え始めています。

また、こうした活動は地区の主体性に基づいて進められるもので、取り組んでいる地区は活性化が進む反面、取り組んでいない地区との差異が広がることが懸念されます。

住民の皆さんが感じている課題

- ・核家族化・少子化により、将来の地域運営に不安
- ・地域や近隣との連帯感や協調意識の希薄化
- ・地域行事への参加者が減少、固定化
- ・若年層の行事参加が減少
- ・老人クラブ、婦人会、子ども会などの会員の減少
- ・自治会などの役員選出が困難、世代交代ができない
- ・役員の負担増、担い手不足

(2) 多様化・複雑化する課題

単身世帯の比率が最も多くなるなか、人知れず問題を抱えながらも生活をしている人は多くいると思われます。

そうした人が福祉サービスを有効に利用しなかったために、命が危険な状態になって初めて発見され、その時点では簡単な手助けや制度では対応できなくなってしまうということがあります。

8050問題、ダブルケアなど、従来の縦割りの支援では対応困難な課題を抱えている世帯、法令上の定義はなく、特化された支援策もないヤングケアラーなど、多様化・複雑化する課題が多く存在することが見込まれます。

住民の皆さんが感じている課題

- ・社会と接点が少ない一人暮らし高齢者が増加
- ・コミュニケーション不足により、世帯構成がわからない家庭が増加
- ・身近な人に子育て相談をし難い環境
- ・一人では解決できない問題を抱えている人への対応
- ・障がい者が社会的に自立していくための環境整備、地域の理解
- ・ひきこもりや孤独死、貧困の広がり

(3) 災害時に対する課題

小田原市が実施した市民アンケートの結果によると、「日ごろの生活での悩みや不安について」に対する回答は、「自分や家族の健康」が23.6%、「地震や火事など災害」が20.9%で、この2項目に対する不安が際立って多いことがわかります。

災害発生時の対応として行政側では、要支援者への移動支援や福祉避難所の支援体制の整備などが求められるところですが、住民側としては、災害時に助け合えることができるような日頃からの近所付き合いや、多くの住民が参加する実践的な防災訓練の実施などが必要とされています。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響としては、サロンなどの地域活動が停滞したことで高齢者の外出機会の減少による健康面での不安や、就労機会の減少による生活困窮世帯の増加が課題となっています。

住民の皆さんが感じている課題

- ・ 防災訓練への参加者の固定化
- ・ 若年層の参加が少ない防災訓練
- ・ 消防団や防災リーダーが勤め人であるため、平日昼間の防災体制に不安
- ・ 年1回の防災訓練では不安
- ・ 災害に対する地域住民の備えが不十分
- ・ 地域内のコミュニケーションが不十分、助け合うことができるか不安

4 課題解決に向けたモデル「福ちゃんハウス」(将来のイメージ)

「流通が生み出す交流で相互理解が進む場」を目標とした、既存の施設、空き家や
空き店舗などを活用した将来に向けての「地域のお店」の展開イメージ

○多様なネットワーク構築が肝要

いろいろな仕掛けをするお店の運営をします。

○地域のなかで多くの人が顔見知りになれる場

通う人と店番の人、通う人同士が自然に顔見知りになり、困りごとを話し合えるよう
な関係性を築きます。

○店番の存在

「支え手」「受け手」という関係を超えた店番の存在は重要で、就労の場（中間的就労
の要素も含む）としても位置づけます。

調整役となる地域福祉コーディネーターも有償とし、全体の調整は地域福祉相談支援
員が担うことも考えられます。

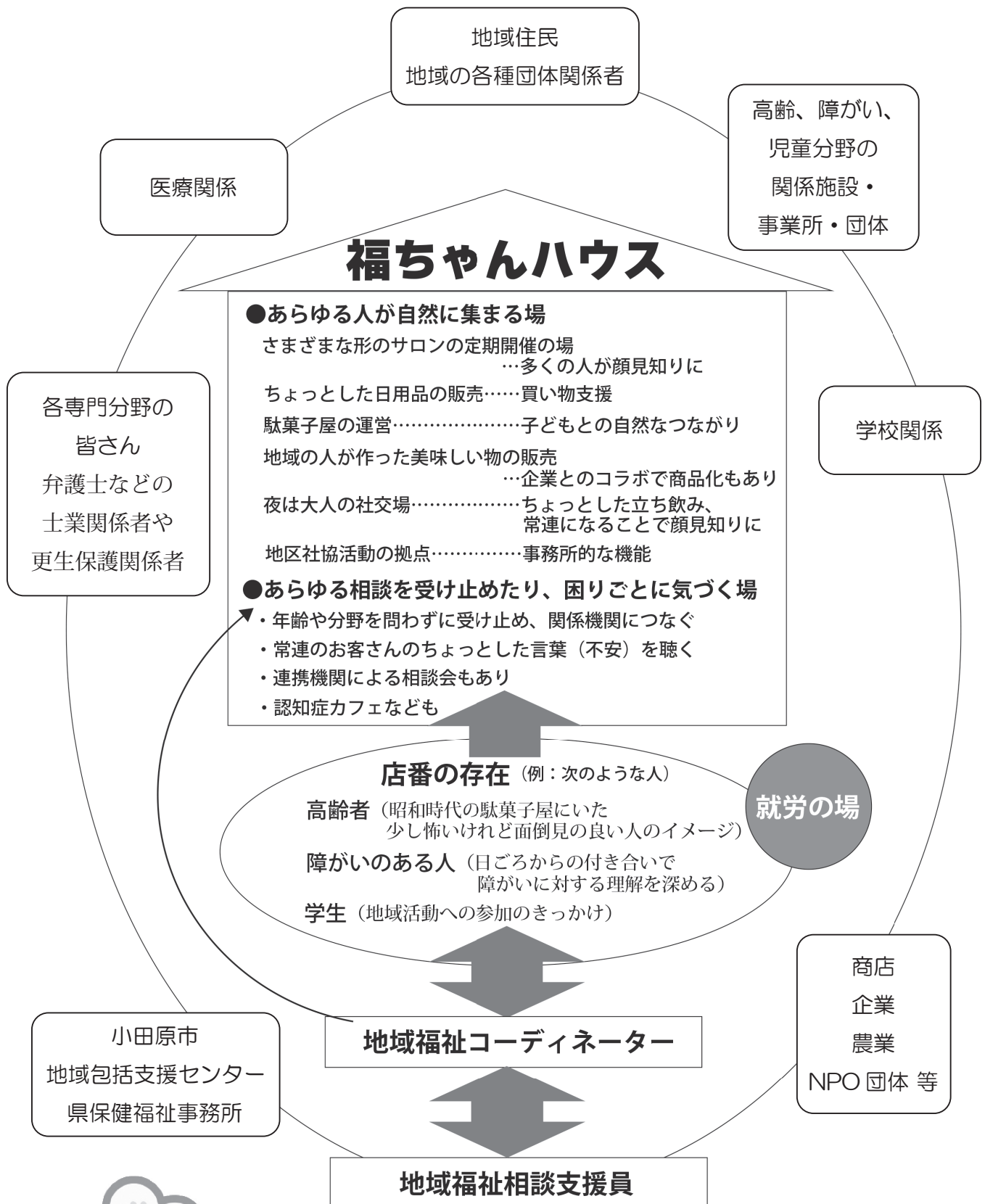
○工夫次第でいろいろな可能性が

次ページの表記以外に次のような展開も考えられます。

- ・障がい福祉施設の製品販売
- ・フードバンク活動
- ・子ども食堂などの展開
- ・犯罪や非行をした人が地域社会で孤立しない社会復帰の場としての取り組み
- ・若い世代の企画・運営参加

○実現に向けて

家賃、水道光熱費、人件費などの財源確保、食品衛生上の対策など、実現するため
はいくつもの課題をクリアすることが必要となりますが、ゼロからのスタートではな
く既存施設の活用や地域共生社会を目的とした国庫補助金の可能性なども模索しつつ、
多くの人が話し合いながら、第3章以降の行動計画を進めることによって近づけるこ
とができると思います。



福ちゃんハウスの“福ちゃん”の由来は
 市社協のイメージキャラクター
 「夢・咲き福ちゃん」から

黒柳さんが 仕掛ける

駄菓子・文具店 くろやなぎ

ここは、子どもも大人も関係なく、集まる人たちが自分らしく、明るく楽しく気楽に過ごしてもらいたい場所です。
みんなの思いやりがあらわれる場所は、気がつく楽しい場所、ホッとできる場所、ついつい時間を忘れられる場所、みんなの居場所になっていくと思っています。
「なんか、ここって良いよね!」と思ってくれたみんな!!
これからも「くろやなぎ」が気持ち良く過ごせて、また帰ってきたいと思える場所になるように、みんなの力を貸してください。
※店内に掲示されているメッセージから引用（一部省略）

●くろやなぎ（曾比 1961）
●問い合わせ
黒柳貴雅さん
（お店 ☎ 36-0327）
（携帯 ☎ 090-7842-1374）

facebook

f 駄菓子・文具 くろやなぎ



みんなをつなぐテーブル

学校帰りに宿題をしたり、友達同士でしゃべったり、時には来店した地域のお年寄りや仲良くなったり、みんなが自然と交流できるテーブル



おだわら 21 世紀少年

小学生から大学生までの異年齢グループが、日常では経験できないことにチャレンジすることを通して、子どもの社会性を養うことを目的とした事業（平成 21 ～ 28 年度開催）

写真は「おだわら 21 世紀少年」の子ども達がプレイパーク（pp@seisho）で「ドラム缶風呂」を満喫する様子

駄菓子は世代交流の潤滑油

子ども達のなかには、学校や家庭では相談しづらい、ちょっとした悩み事を打ち明けてくれる子もいます。

自分が信頼され伝えてくれた一言かもしれないので、一緒に向き合っていくように心がけています。
駄菓子を通しての子どもと大人の交流もあり、ここが、いろいろな世代にとっての交差点になってくれたら嬉しいです。

プロフィール

学生時代は、小田原市社協主催事業「おだわら 21 世紀少年」のリーダーとして活躍。その後、東京都内で学童保育の支援員などを務めた後に家業を継ぐ。現在は、子どもの自主性を大切にした自由な遊び場づくりをする pp@seisho（プレイパークをつくる会 @ 西湘）の代表も務める。

——黒柳貴雅さんの思い

